



観光協会再建にむけて —— 町の積極的な関与がカギ

地元紙にも報道されているように、観光協会で使途不明金問題が浮上しました。このことは、島の基幹産業である観光に大きな打撃を与え、私たち住民にも、町の観光行政と協会に対する大きな不信をもたらすことになりました。

一方、不祥事が明るみになったことで、協会と町の問題点も浮き彫りになりました。ずさんな組織運営の原因は、個人の不祥事にとどまらず組織の体制や体質にも深くかかわっているため、十数年前までさかのぼって原因を究明し、再出発すべきです。そこで、私の知りうる限りの情報をたよりに、まずは組織の役割と現状を整理してみたいと思います。

観光協会の役割と現状 協会は観光の窓口です。ホテル・民宿やレンタカーのあっせん事業を柱に、空港や客船待合所での案内業務などすべての案内サービスを提供してきました。しかし、インターネットの普及により、宿泊は協会を通さずに予約できるようになり、あっせん手数料は激減しました。協会の経営悪化の主な原因はここにあります。さらに宿泊施設や観光業の会員が減少し会費収入も減りました。15年前より協会の人件費として町から600万円の補助金が出ていますが、それでも苦しい経営が続いています。

町のイベント 八丈町で年間で開催されるイベントはおよそ20件(町主催は約10件)、イベント費用と広報事業費の総額約4000万円の9割を町が、1割の400万円を協会が負担しています。イベントによって観光業者が潤うというのがその理由ですが、手数料・会費収入の激減した協会にとって400万円の負担は経営を大きく圧迫しています。負担金の意味を検討しなおす時期にきていると、私は思います。

観光振興実行委員会という組織 観光不振の状況を打破するために、町と協会が協議し、観光誘致活動を積極的に展開することを目的に平成10年に発足しました。両者がイベントを実施しやすくするためにつくったとも言われています。町や協会員だけでなく、町議会・支庁・商工会・農協・漁協からも委員が加わり、観光イベントの取り組み全般を主導していくというものです。これまで、JTB社員を東京の事務所において活動(H11~13)、「ひょうたん島」を利用した広報活動(H14~16)を展開し、その後は観光対策アクションプランを3年ごとに3回策定し、現在にいたっています。

観光振興実行委員会予算のうちわけ 昨年度のうちわけを見ると、集客事業に2500万円、約10件のイベント事業に2100万円、広報宣伝事業に1900万円で合計6500万円となっています。しかし、観光客の数が思い通りに伸びていないことから、集客事業費の効果は疑問視されています。前年度の来客数や評価に応じて、予算の増減や事業の見直しが積極的に行われるべきで、予算を承認するだけの組織になっている現状では、実行委員会の存在意義そのものが失われていると思います。

前ページよりつづく

中野ブロードウェイでのイベント中止 協会の元事務局長による不祥事が原因で、中野ブロードウェイ(=中野BW)組合は、町が行っていた中野BWでのイベントを中止すると伝えてきました。これが八丈町だけでなく、大島や神津島も含む東京諸島観光連盟に対しての通達だったために、突然の中止に町も議会もその影響を心配しました。町が事実関係を確認した上で出向いて謝罪したところ、今後については前向きに検討したいとのことでした。他島に対しては7月の観光行政連絡会議で町が謝罪することになりました。

再建への道のりは 危機的状況にある協会の事情を、観光客は知る由もありません。空港や客船待合所の案内業務を充実させ、窓口や電話での対応もよりよいに、これまで以上の“おもてなしの心”で接してほしいと思います。

組織の再建には、まず人事の一新と経費の節減を徹底して、経理の透明性を高めるべきです。あらたな収入を確保するために、協会独自の事業を展開することも必要です。そして最も重要なのは、町の積極的な支援だと私は考えます。町は監視の目を緩めることなく、連携を強めてしっかり支えるべきです。

8月6日に臨時議会 —— 観光協会と観光振興実行委員会に議論が集中

議案は契約2件のみでしたが、その後副町長から中野BW組合との交渉の途中経過報告と、町長からは協会への補助金を執行したいとの意向表明がありました。

私は、「これまで凍結されていた予算が執行されると聞き安心した。組織の改革は必要だが、それは進行している業務と並行してできること。町がきちんと支援する態勢を示せば、従業員も決まってくると思う」と述べました。ほかに、「ずさんな経営をしていた協会に補助金はつけるべきではない」、「前執行部が辞任し、欠損金を埋めたというがそれで責任を果たしたといえるのか」、「補助金は出すべき。実行委員会は機能していないので、見直すべき」「実行委員会は計画・予算を組むのも町、執行するのも町になっていることが問題だ。活動もほとんどしていないのでいらない、なくすべきだ」「協会にとってイベント実施費用の1割負担は重い、見直すべきだ」など多くの意見が出されました。

これに対し、町長は、「補助金は執行したい。不明金の詳細については9月議会で報告できるよう努力する。実行委員会の存続については年内をめどに考えていきたい」と答えました。議会と町の意見がまとまってきて、これまで身動きがとれなかった観光行政は、ようやく前進する兆しが見えてきました。

アイランドリーグ —— 8月2～4日 南原スポーツ公園で

伊豆諸島・小笠原諸島の小学生によるフットサル大会「アイランドリーグ」は、今年で20回目。会場は各島持ち回りで、八丈は5回目の開催です。島の大小はあっても、参加した約120人はみな元気よく戦いました。優勝は八丈島の大賀郷FCでした。競技の前日、多目的ホールで子供たちが島の長を公表しあいました(写真)。懸命にアピールする姿が可愛らしくそれぞれの島への愛着が伝わってきました。





2013年6月議会 一般質問



<http://www7.ocn.ne.jp/~sachiko8/okuyama/>

1. 具体的に目標を定めた町職員の育成を

新庁舎にふさわしい職員を望む声が高まっている。町は、職員の人材育成に努力されてきたと思うが、さらに力を入れていただきたい。

(1) 資格取得を含め、専門的な能力をもつ職員とリーダーの育成をはかる考えはないか。

町 昨年、「人財育成」(町は、人材を人的財産と考え「人財」と表現している)に関する指針をまとめた。内容は質問の趣旨とおおむね合致している。専門職員の育成については、一般職に加えて専門職を設け、職員が選べるシステムを検討したが、諸事情で見送った。

再質問 本人の希望に沿った異動を行っているか。種類は問わずに資格取得希望者を募集し支援する考えはあるか。

町 年に1回、職員から希望をとり、今年度は100%希望にそって異動した。資格取得の支援は、業務に支障がない範囲で行っている。職員の自己啓発も呼びかけている。

(2) 女性管理職の登用を進めるべきだと思うが、町の考えは。

町 女性の管理職育成については、町長が強い意欲を持っている。

再質問 ひとりでも女性管理職が登場するよう、まずは課長のうち一人は女性にするという目標、女性枠をつくってほしい。

町 昇格は試験で行うが受験志向が低い。今年度、町長の意向で昇進が可能となる「課長補佐」を設けたが、なかなか希望者がでない。

再々質問 受験志向が低いこと自体が問題。受験をためらう理由は何かを明らかにし、意欲を持つよう支援すべき。

町長 側面から支援すると言っても、責任の重さや議会の対策を考えると、ちゅうちょするようだ。

2. 新庁舎・多目的ホールの活用は住民に開かれたルールで

多くの住民に気軽に庁舎やホールを利用してもらうために、住民の立場にたったルールづくりを進め、開かれた庁舎を目指すべきと考える。

① 会議室の一部開放を

町 セキュリティの課題があり、会議室を一般開放する考えはない。

② ギャラリーわきの厨房でカフェの営業を

町 カフェは採算性から考えてむずかしい。今後要望があれば検討していく。

③ 多目的ホールの利用料と利用規定の緩和

町 受益者負担の原則に基づいて決めた。高くはないと思う。今後運営をしていくなかで決めていく。

再質問 1000円以下の料金設定が非現実的。この区分をやめて3000円以下はすべてこの料金とするのが妥当と思う。再考をお願いしたい。

町 これから運営をしていくなかで検討していきたい。



6月議会・全員協議会の発言から

- 新庁舎敷地内にバス停ができるまでの措置が必要。路線バスを利用する高齢者などは、旧役場のバス停から新庁舎まで歩かねばならない。この間をマイクロバスなどで送迎するサービスをすべきだ。
- 町 新庁舎の周辺の道路ができるまで、バス停もできない。送迎サービスは現時点で考えていない。
- 地熱館の委託先は決定したか。
- 町 4団体の応募があり、プロポーザル方式で内容を検討しほぼ内定したが、詳細は現時点で明らかにできない。
- 地熱館のパンフレットは新たにつくるのか。であれば、英語のパンフもつくるべきだ。八丈の他のパンフについても、理想的には日本語、英語、韓国語、中国語の4か国表記が望ましいが、少なくとも英語表記はすべきだと思う。
- 町 パンフレットは新しくする予定であり、英語表記も考える。他については観光振興実行委員会で検討したい。

給食センター運営協議会から

「学校給食の現状報告と給食費について」のテーマで、6月27日に開かれました。食材費の高騰と給食費の公的補助がなくなったことで、献立が制限され、その結果十分な栄養が確保できていない現状があります。栄養を確保するためには、給食費を値上げせざるを得ないという認識で一致していますが、保護者の負担と町の負担をどの程度にするのが適正かが、議論の中心になりました。町からは3つの提案がありましたが、保護者の負担が最も少なくて済み、値上げの幅が少ない案が良いとする意見が大勢を占めました。今後はさらに詳細を調査した上で、町の方針を出すことになります。

また、現在八丈産牛乳の生産がストップし、LL牛乳になっていることについて報告がありました。学校側からの八丈産の牛乳を飲ませたいのとの要望に対し、町は、安定供給ができるめどがたったところで再開したいと答えました。

編集後記

夏まつりが3年ぶりに大賀郷に戻ってきました。新庁舎を中心に夜店が並び、懐かしいと思った反面、店の数が減り、訪れる人の数も減っていました。出店していた事業所の中には、今年限りというところもありました。さびしい限りです。人口が減っていくというのは、こういうことなのかと実感し、なんとかならないものかと思えます。

観光客にとっても、帰省者や子供たちにとっても楽しいイベントです。商工会主催（町が支援）の祭りではありますが、より多くの事業所に参加してもらえるような、工夫も必要なのではないでしょうか。

さちこのニューズレター

第四二号 / 二〇一三年九月

編集発行 奥山幸子
イラスト 奥山幸子